



～「ちゅら島沖縄」の実現に向けて～ プラスチック問題の解決に取り組みましょう



沖縄のプラスチック問題

サンゴ礁に囲まれたエメラルドグリーン的大海と白い砂浜。
美しい自然とそこで育まれた文化は世界に誇れる沖縄の大きな魅力です。
その「ちゅら島沖縄」に危機が迫っています。
海岸に大量のプラスチックごみが流れ着いているのです。

海岸に流れ着くプラスチックごみは、県外や海外からのごみも多くありますが、県内で捨てられ雨や風で運ばれてきたごみもあります。

プラスチックはとても便利で身近な素材ですが、自然界に流出すると長時間分解されず残り続けるため、今の使用量や対策では、2050年に海の魚の量をプラスチックごみが超えてしまうと言われています。

また、適正に処分されたプラスチックごみも焼却されることで二酸化炭素が発生し、地球温暖化の原因となります。

「ちゅら島沖縄」の実現に向けて、一人ひとりがプラスチック対策に取り組むことが求められています。



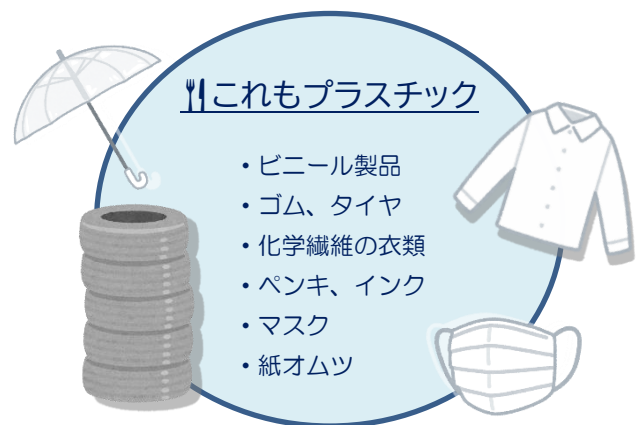
ビーチに漂着するプラスチックごみ



公園に捨てられたプラスチックごみ

沖縄のプラスチック問題の特徴

- 漂着するプラスチックごみの影響を大きく受ける
- 河川が短く、陸上のプラスチックごみが雨風で海に流されやすい
- リサイクルできず焼却されるプラスチックごみが多い
- ごみ処理やリサイクルの施設が限られている
- 離島ではごみの輸送コストが大きな負担となっている



プラスチック問題の解決に向けた取り組み

沖縄県ではプラスチック問題の解決に向けて、「[プラスチック問題に関する万国津梁会議](#)」を開催しています。プラスチック問題を総合的に検討するため、プラスチック製品の製造者、販売者、消費者、リサイクル事業者、新しいプラスチックの開発者、研究者等、各分野の専門家、関係団体の代表が会議に参加して議論しています。

今年度、会議は知事への提言をまとめる予定です。沖縄が目指すべきビジョンとして、現在次の方向性が示されています。

プラ対策の先進地として日本をリードする

島しょ型の循環社会を実現する

ビジョン達成のために、下記の取り組みを重点的に実施します。

- 新たなライフスタイルへの転換の推進
- 自然と共生する社会を沖縄の魅力として発信
- ビーチ・川・街中でのクリーン活動の推進



次のページに万国津梁会議で議論されているプラスチック問題解決に向けた取り組みを示します。

新しいライフスタイルへの転換(抜粋)

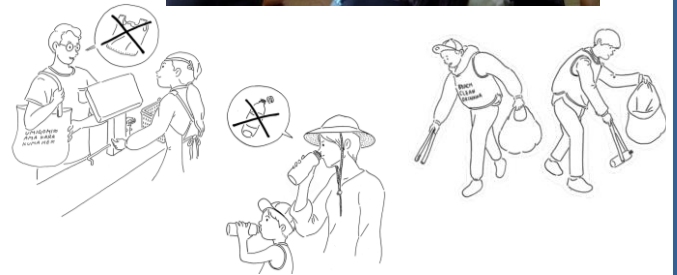
1. 環境教育・コミュニケーション

- 学ぶ機会、情報に触れる機会の創出
- ワンウェイ・プラスチックの大幅削減や、プラスチックごみの回収～処理・活用までを含めた総合的な学習
- 自治会や住民との対話を重ねる取組、教育関係者との連携
- 若い世代への普及啓発、効果的な学習プログラムの開発



2. 普及啓発

- 環境に配慮した商品やサービスを選択する新たな消費行動の普及
- ポイ捨てされたごみがすぐに海に流れ出る島嶼の特性の考慮
- 関係者が連携した管理や捜査の強化(不法投棄、ポイ捨て対策)
- マイクロプラスチックを発生させない衣類や洗濯方法の普及



プラスチック資源循環社会に向けた取組(抜粋)

1. プラスチック製品の使用削減

- 使い捨てプラスチックの先進的な削減の推進
- 沖縄らしい伝統的な資源循環の工夫や知恵の活用

2. リサイクルの推進

- 再資源化施設の整備や分別方法の統一、スケールメリットの創出

3. クリーン活動の推進(海洋ごみ対策)

- 川ごみを含めた陸域の清掃活動、美化活動などの支援や活動の周知
- 海洋ごみを資源として活用する方法の検討

4. ブランディング

- 県民のプライドにつながるプラスチック対策
- 自然と共生する沖縄らしいスタイルのアピール

5. 推進体制の構築

- 県民、企業、行政、その他団体・機関や観光客が一体となった取組
- 国の目標を上回る数値目標の設定

6. 制度の導入と活用

- 自立した制度の導入(デポジット制度や川ごみ対策など)
- 国や県の補助制度、ふるさと納税の活用

